

『世の中に たえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし』
4月に入って、晴れたり降ったり、暖かかったり寒かったり、めまぐるしく
変わるお天気ですが、お花見はされましたか？ 造幣局「桜の通り抜け」は
23日までです。現在会員登録数 804 人さま。ご愛読いただきありがとうございます
ございます。次号は5月22日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
 - 《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk
 - 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 20
 - 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー
 - 《4》 行って来ました!
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

■ [1] お知らせ ■

- 東日本大震災で被災した子どもに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーン
終了のお知らせ — ご協力ありがとうございました

昨年発生した東日本大震災に関して、被災した子どもたちに本を贈る運動を
企画し、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会
事業団とともに主催した『いっしょだよ』キャンペーンは、およそ1年が経
過し当初の目的を果たすことができましたので、ひと区切りといたします。

昨年4月26日の運動開始からこれまでに寄せいただいた寄付金は、1,562件
2,473万5,393円。作家や出版社からの寄贈本870冊を含む計1万9,036冊を、
岩手・宮城・福島を中心に339カ所の幼稚園や保育園、小中学校など
にお贈りしました。各施設からは感謝の声が続々と届いています。ご協力い
ただきました皆様、関係者の方々にお礼申し上げます。

- 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募って
います。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充
てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■ [2] コラム ■

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『ロス、きみを送る旅』 キース・グレイ/作 野沢佳織/訳 徳間書店

2012年3月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：ロスが交通事故で死んだ。お葬式に行ったブレイク、シム、ケニーは、親友ロスを本当の意味で悼むため、生前ロスが話していたスコットランドの「ロス」という町に行って、ロスの遺灰を撒くことを決意する。遺灰を持って旅に出た三人は、お金を失くして乗継の列車に乗り遅れ、三人の関係がぎくしゃくする。そして、それぞれが自分とロスとの関係、ロスの死について考え始める。

O：親友の突然の死に動揺した三人の旅は支離滅裂で謎が多く、ついつい読み進めてしまいました。発端の「本当のお葬式をしよう」と言って、ロスの遺灰を盗み出すブレイクの冷静さと心の動揺がその後の旅を暗示していたのですね。

Y：ロスの父親はブレイクに、警察が「自殺の可能性もある」と言っていることを伝えます。ブレイクもロスの家族も加害者の言い逃れだと否定するのですが…。読者が、おや?と思う展開になります。

O：ロスを含めた四人の少年は、それぞれ家庭に問題をかかえ、教師ともうまくいかず、いじめに悩み、異性との関係もぎこちない。そうした悩みが絡み合い、内面では押し潰されそうになっていることがわかってきます。15歳特有の不安感や世界観を浮かび上がらせていく描写は巧みです。

Y：旅の途中で女の子の友だちグループに出会って、ブレイクは「本当の友だちとは」ということをぶつけられます。また、ロスのお葬式のありようが、うそくさいという怒りには、大人への不信感があふれていましたが、途中から、自分たちもロスに対して不誠実さを抱えているのに直面させられていきます。その過程にリアリティを感じました。

O：作者は、死んだ少年のことを直接書かず、友だちの言葉から浮かび上がらせています。そうすることで、ロスに死なれたという事実が少年たちに重くのしかかっていることを感じさせています。そして、「自殺」を肯定も否定もしないで、「死んでしまったら何も起こらない。生きることを選ぶのだよ」と、明解にメッセージを送っているようです。

Y：原題は『Ostrich Boys』（ダチョウの少年たち）。ダチョウは、危険が迫ると砂のなかに頭を隠すと言われており、原題は『現実逃避の少年たち』という意味を持っています。

O：このタイトルを最初から知っていたら、読み方が変わったかもしれません。自分たちの持っているロスに対する負い目と必死に戦うための旅だったのですから。

Y：結末を知った上でもう一度読むと、また違う発見のできる作品だと思います。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 20

「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル f. ことば遊び絵本」

ことばあそびには、なぞなぞ、しゃれ、回文、しりとりなど、たくさんの種類があり、ことばあそびをすることによって、ことばの意味のおもしろさや音の不思議に気づかされます。その中でも一冊の本が一つのまとまりを持ったことばあそびになっている絵本は、一冊まるごとで、「ことばとは何か」ということを表現した物語を提示しています。

英語圏にABCを順に紹介したアルファベット絵本があるように、日本には「あいうえお絵本」が多くありますが、『かっきくけっこ』（谷川俊太郎/作 堀内誠一/絵 くもん出版）は秀逸です。堀内の色と構図に対する鋭い感覚で、50音それぞれのイメージがデザイン化された文字で表現されており、最後は忍者が「ん」と言って終わるというユーモアあふれる絵本です。

また、幅広い年齢に人気があることばあそび絵本『もけら もけら』（山下洋輔/文 元永定正/絵 中辻悦子/構成 福音館書店）は、ジャズピアニストの山下が、日本語としては意味をなさないリズムカルな音を繰り出し、抽象的な絵がその音に応えます。「もけらもけら」という音とともに、緑や黄、ピンクの明るい色のユニークな形のものが前へ進むイメージで絵が展開する中で、「じょわらんじょわらん」という音と黒を基調としたページが挟み込まれることによって、動と静の対比が生まれ、ことばは記号であり、音や形や色と同様にさまざまな表情があるということが無意識に理解されます。声に出して読むことで理解はますます深まります。

元永は谷川俊太郎とも『もこ もこもこ』（文研出版）や『おはなししましょう』（福音館書店）などのことばあそび絵本を作っており、どの絵本も、私たちにことばの概念を認識させてくれます。『すすすっはっはっ こ・きゅ・う』（長野麻子/作 長野ヒデ子/絵 童心社）も、ことばと音、こえ、息との関係を表した楽しい絵本です。

ことばは、私たちがものを考え、人にその考えを伝えるときに欠かすことのできないものです。ことばあそび絵本を読むことによって、ことばの源流に遡り、ことばの力に出会うことは、あふれる情報の中で生きる、子どもを含む私たちにとって大切なことだと思います。

* 次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する:ジャンル g. 詩の絵本」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース20回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●宮城県図書館 <http://www.library.pref.miyagi.jp/index.html>

宮城県図書館が所蔵する資料に、紙芝居があります。紙芝居といえば、昭和初期に街頭で子どもたちを熱狂させたメディアです。戦時下ではいったん衰えたものの、戦後復活し、テレビが登場する昭和30年代前後まで子どもたちの日常の大きな楽しみの一つでした。

しかし、それらの紙芝居の殆どが手描きの一点ものであり、大量複製されたものではないこと、また街頭で何度も演じられることで消耗が激しく、現存するものが極めて少ないことから、閲覧や保存が大変難しい状況にあります。

そんななか、同館は地元の紙芝居師から寄贈された紙芝居5,645点(57,075枚)を所蔵。紙芝居の修復保存を重視し、外部専門家による調査等も行った結果、「大衆文化・児童文化の歴史を実証する意義と手描き制作であるが故の資料の価値」(「宮城県図書館だより」25号より)が認められ、平成18年3月に国の登録有形文化財(美術工芸品)として登録されました。

参考: <http://www.library.pref.miyagi.jp/kotobanoumi/pdf/2502.pdf>

紙芝居では他に、2万巻以上の原画を保存する「塩崎おとぎ紙芝居博物館」(大阪市)や、約4,000巻(5万枚)を所蔵する大阪府立中央図書館 国際児童文学館(東大阪市)がありますが、同館も紙芝居文化の継承や研究の観点から東日本の重要な拠点といえます。

残念ながら、所蔵紙芝居のオンライン検索はできませんが、一般公開はされており閲覧は可能です。今後は、所蔵情報はもちろん、資料保護のため原画のデジタル化及びネット公開についても期待したいところです。

さて、これまで20回にわたり、貴重な資料を所蔵する施設のサイトを紹介してきました。次回から、資料そのものをネットで公開したり、特徴的なデータベースを構築しているサイトを紹介します。(J)

《4》 行って来ました！

りんくうタウンで開催されている「セカイに飛び出す 日本のおもちゃ・マンガ・アニメ展」に行ってきました。

「クールジャパンで復興支援」が合言葉。ホテル内の会場に入ると、すぐ6枚の「壁新聞」が展示されています。石巻日日新聞が、昨年の東日本大震災で社屋が水没し印刷機が動かない中で、翌日から6日間発行されたものです。

ペンで手書きされた新聞は、とても生々しく被害状況や避難所の様子を伝えています。壁新聞といえば、小学生の頃を思い出しますが、被災された方々にとって大切な情報源となったことは間違いありません。あらためてマスコミの使命について考えさせられる「魂の新聞」です。

次は「石ノ森萬画館」。津波被害で今も休館中ですが、被災直後の様子や再開のために取り組んでおられる現状がパネルで紹介され、修復されたヒーローの等身大フィギュアが展示されています。

北原照久さんのおもちゃコレクションのコーナーでは、マンガ家の聖地とも

いわれる「トキワ荘」の住人たちの寄せ描きカーテンや、石ノ森章太郎、手塚治虫、藤子不二雄などゆかりの作家のキャラクターの人形や雑誌の付録など、懐かしいおもちゃが並んでいます。さらには、ブリキ製のおもちゃや、アメリカ向けのセルロイド人形などなど…。1880年に作られた、和装の乗客が描かれた汽車のおもちゃは、糸のしかけ（ぜんまいより古い）で動くそうです。ガラスケースにぎっしりと詰められたおもちゃを、一つずつ想像の中で動かしながら見るのはとても楽しい時間でした。（K）

【3】全国のイベント紹介

●「こどものほんだな」（旧・選定児童図書目録）発行50年記念講演会

「子どもの本の50年をふりかえる」

講師：三宅興子（当財団理事長）

日時：平成24年4月22日（日）午後2時～4時（開場1時30分）

場所：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

定員：300名（申込不要・当日先着順・入場無料）

問合せ：大阪市立中央図書館

*関連児童書の展示 4月21日（土）～5月16日（水）1階エントランス

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ？」で紹介しました『ロス、きみを送る旅』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.20プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月10日（木）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

晴れた空に満開の桜。一目でそれとわかる小学校1年生の子の、真新しく大きすぎるランドセル姿はほほえましく、思わず「ピッカピカの～♪」と応援したくなります。そして、私自身もちよっぴりフレッシュな気持ちを取り戻したりする春の朝です。（A）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
